

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑 (1棟)		
所在地	〒838-0142 福岡県小郡市大板井391番地36	TEL	0942-73-1218
自己評価作成日	令和02年01月31日	評価結果確定日	令和02年03月07日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和02年02月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設16年目となりますが、長く入居されている方も多く入居者の平均年齢も87歳となっています。車椅子利用の方もそれぞれの棟に5~6名ずついらっしゃいます。しかし、毎日の体操・手足の運動や洗濯物のお手伝い等、皆様積極的にされており生き生きと過ごされています。また、料理クラブや生け花クラブ、壁飾り作成や塗り絵などにも参加して頂き出来ることを少しずつ頑張らせていただいています。当苑に隣接する保育園からは、毎日子どもたちの声が響きわたり、元気にかけまわる姿を目を細めて眺められています。月3回の園児との交流や園児の行事参加も利用者の方の大きな楽しみとなっています。職員も長く勤めている者が多く家庭的な雰囲気の中で、家族の様な信頼できる関係が築けているのではないかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で利用者一人ひとりが大切に尊重されている。事業所の理念を玄関や申し送りの場に掲げ、唱和している。とても分かりやすく職員に浸透している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域の公園や公民館の清掃に参加している。回覧板等で、地域の情報や案内等を知ることができる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一員として地域のSOSネットワーク検索、声かけ模擬訓練などに参加した。地域包括支援センターの協力の元、地域の方に呼びかけ「認知症サポーター養成講座」を開催予定している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で現状報告を行い施設側の問題点や困っていることを報告し、意見やアドバイスをもらっている。地域の情報や参考になることも多く取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課には書類提出時に、福祉課には生活保護者の方のケアプラン変更時にケアプランを提出する際、現状報告し様々な問題点など相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者より身体拘束についての研修を職員全体に行った。各棟では毎月身体拘束の必要性について話し合う機会がある。また3ヶ月に一度両棟で現状報告をし必要性について確認し議論している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び意識を高めるようにしている。職員間で虐待等が見過ごされないように、毎月の会議で意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回の家族会で司法書士により制度について説明がある。現在、利用している方はいないが、入居相談や契約時に必要な方に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居から契約に至るまでに十分な説明を行い、利用者と家族の意向をくみ取るようにし、どんな相談も気軽にできるような関係性を築いている。改定時は書面で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より管理者だけでなくすべての職員と利用者や家族がコミュニケーションを図るようにしている。面会時には最近の様子を話し、あまり面会がない家族には電話等でその都度伝えている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も出席する毎月の会議で職員一人ひとりが意見を言いやすいような環境を作っている。出た意見や要望について代表者から答えやアドバイスをもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年に一度職員の個人面談を行い、改善に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用募集・採用に当にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除していない。また資格取得のための支援を行い、研修なども勤務扱いで自己実現の権利が保障されている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念を念頭に一人ひとりに丁寧で温かい介護を心がけている。人権研修は内部研修で行い、職員全員が学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を勧めている。また、会議後にその日の内容から研修を行い、職員の意識や意欲を向上するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と看護師は地区の医療介護連携会議に参加し同業者と意見交換をしている。また、職員と入居者で近くのグループホームを訪問し交流会を行った。管理者から施設内見学と介護の工夫など教えてもらい参考になった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状態の把握や家族からの状況確認を聞き、入居前に環境づくりに努めている。また利用者とは入居前に面識を持ち安心して生活が送れるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの生活状況を把握することで、家族の不安や心配を理解することができる。なるべく今までの生活が継続できるように、丁寧な対応をするように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を把握し、利用者と家族が安心するようなサービスの支援を行う。必要があれば入居前のサービス担当者やケアマネや医師と連携を図ることもある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や病状を十分理解し、共同生活の一員として笑顔で声かけし温かい対応を心がけ関係性を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事へのお誘いや外出への協力をお願いして一緒に食事などする機会を設けている。職員と一緒に利用者の支援をして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や、キーパーソンの了解があれば外出もしてもらえる。入居前からのかかりつけ医への受診など家族と支援している。知人やボランティアと交流も途切れないようにしている。携帯電話で家族と連絡を取り合う方もいた。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい安心して楽しく過ごせるような場所を設定している。名前や顔も覚え顔なじみになっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や入院をされた方のところへ面会に行き、話をしたりすることがある。家族からその後の状態について報告や相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や関わりの中で思いや意向の把握につとめている。意思疎通が困難な利用者には家族より情報収集し、一人ひとりに合った支援を行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から入居に至るまでの経緯や生活状況や身体の状態の把握に努め、家族、担当ケアマネや相談員と情報の共有をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の趣味や興味のあることを把握し、生活の時間の中で提供するようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から意向や要望を聞き、職員全員で意見を出し合い、本人が生き生きと生活できるようなサービスを提案し介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、日常生活の中での異変や心身の状態の変化は細かく記録されている。情報等は職員間の申し送りで伝え、介護計画の見直しやケアの実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に適した病院受診等を家族と支援している。また福祉用具や介護用品の取入れも支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流を毎月行っている。地域の行事への参加、ボランティアと交流もある。他のグループホームにも出かけ入居者の方と交流した。気候が良い時は近隣を散歩し、地域の方と挨拶をするなど利用者が生き生きと暮らせるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医がある場合はそのまま引き続き受診してもらい、家族の付き添いが難しい時は訪問診療に移行し、入居者と家族が安心して医療を受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は常に情報の交換を行いながら、訪問診療の看護師や医師にも相談して、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院には家族とともに付き添い日々の情報提供などを病院に行いながら、早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に利用者の重度化した場合の事を書面にて説明している。利用者の重度化や終末期のあり方について家族、医師、施設側と十分に話をし利用者にてできるだけ支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生の場合の防災訓練や防災マニュアルを作っている。応急処置や初期対応も講習を受け訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを見直し整備した。職員研修もを行っている。訓練に地域の消防団の参加もあり定期的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にして笑顔でゆっくりという理念の元、その方に合った言葉かけや態度に気を付けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定ができるように支援している。好む飲み物や食べ物、居室や食堂での過ごし方など本人が希望を表せるようにしている。自己決定ができない方には表情など見落とさないようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人によっては居室で過ごすことを好まれる方もいる。体操などはできるだけ一緒に行い、本人の希望があるときはできるだけ添えるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容では、定期的に白髪を染め髪型を理容師と相談し決める方もいる。自分の好みの服を選び来てもらう。できない方は職員がその方に似合うような服装選びなど支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日に食べたいメニューを入れることがある。毎日の食事を楽しみにして完食してもらえるようにその方に合った量や形態にしている。レクで野菜の皮むきや切ったり調理なども一緒に行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェック表に記入して把握している。水分量が少ない方には好みの飲み物を提供している。摂取不良時は看護師や医師に相談して対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、毎食後の歯磨き、磨きなおし、うがいまで介助している。訪問歯科の利用もしながら、医師や歯科衛生士からのアドバイスを受け、口腔状態の清潔に気を付けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄への声かけや誘導を行いながら、失敗を少なくしている。車椅子の方も動きがあるときは早めに誘導している。夜間も自分でできる方には声かけをしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行っている。排便困難がある方に対して坐薬など使用する。日頃は水分摂取、野菜などを多く献立に採り入れ、運動するなど心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせての入浴は基本的に一人で入浴できる方は、希望の時間に合わせている。全介助の方は介助者が安全に行えるように支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前にテレビを観たり話しをしながらリラックスしてもらい入眠を促している。高齢の方は早く休まれることが多いので、職員が付き添い安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が服薬されているので、一人ひとりの薬を確認して確実に服薬できるように支援している。副作用や症状の変化に気を付けている。薬について聞かれたら不安がないように説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の洗濯物の手伝いや食事前のテーブル拭き、個々に合ったお手伝いをしてもらったり、家族や友人の面会や、病院受診後に家族と外食されたり自宅に戻ったりされる方もある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が良い時は、苑の周辺を散歩したり、隣の保育園児と一緒に散歩したりすることもある。ドライブして季節の花を見て外食することを年に数回計画していてその都度ご家族も多数参加され一緒に楽しまれている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は施設側が預かって管理している。お金の不安を訴える方には、預かっているお金を見てもらい安心してもらっている。日用品など頼まれ買うこともある。外出時には自分のお金から自分の好きな物を自由に食べてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の支援や、携帯電話を持っている方もいたので把握して支援している。年賀状や暑中見舞いのやり取りの支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂で過ごす時間が多いので、テレビの音量の調整や寒暖の調整を行い利用者に不快がないようにしている。また中庭が良く見えるため、花を見たり空の色や鳥を見て心が和まれているようだ。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った利用者同志が座れるようにしている。意思疎通の難しい方には職員が寄り添うように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や思い出の品を飾り、自分の部屋として安心して生活できるように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての場所には手すりがあり、自力歩行の方は手すりにつかまり移動ができる。車椅子の方も自走できるようバリアフリー人になっている。		